

このようなアンケート調査結果は、わが国の人工心肺実施施設においては、手術室の環境整備、機器の安全性確保、監視装置の活用、人工心肺装置保守点検マニュアル・人工心肺操作マニュアル・人工心肺危機対処マニュアルなどの整備、人工心肺に関する研修など多方面におよぶ安全管理に対して、従来以上の注意を払う必要があることを示している。このため本研究班においては、主として班員の経験をもとに、「人工心肺のセーフティマネジメント」に関する指針をまとめた。さらに人工心肺のインシデントは、数百例に1例しか起こらないものであるにもかかわらず、その結果が重大なものとなる可能性があるものであることに鑑み、班員の経験ならびに内外の文献をもとに、「人工心肺中のリスクとその回避」に関する指針をまとめた。

陰圧吸入補助脱血法のインシデント・アクシデント発生率の高さは憂慮すべき状態にある。本研究班としては、今回のアンケート調査の結果ならびに別添の「3学会合同陰圧吸引補助脱血体外循環検討委員会中間報告書」を参考とし、本法実施にあたっては、次の4点を遵守する必要があると考える。

1. 陰圧吸引補助ラインにはガスフィルターを使用せず、ウォータートラップを装着する。
2. 陰圧吸引補助ラインは毎回滅菌された新しい回路を使用する。
3. 貯血槽には陽圧アラーム付きの圧モニター並びに陽圧防止弁を装着する。
4. 陰圧吸引補助を施行する際には微調整の効く専用の陰圧コントローラーを使用する。

人工心肺を日常の業務とする各施設においては、本研究の結果ならびに指針を参考にして、人工心肺マニュアルの整備等の安全管理を通じて、心臓手術、大血管手術の安全性向上を図られることを願う次第である。